

全国運動東部の会結成 70名の熱気で大成功!

「7・2国鉄分割・民営化反対! 1047名解雇撤回 新たな全国運動 東部の会」結成集会が、亀戸カメリアプラザで開催され、70名の結集で大成功を勝ち取りました。

司会の区職労の仲間からの「自分の職場で闘おう」という開会あいさつで集会は始まり、まず動労千葉争議団・1047名当該の中村仁さんが決意を述べました。中村さんは「労働者として働く権利を奪われた。だから24年間解雇撤回で闘ってきた。まずはJRに謝らせなければならぬ。それから仲間を拡大し、指導部は闘わないが、現場の組合員は闘って旗を守っている。現場労働者の中に闘いがある」と。中村さんと小玉さんの火を吐くようなアピールは参加者全体を獲得しました。



続いて委託職場で働く仲間が基調提起を行ないました。自らの地域での経験に踏まえて「6・13集会は、この火を守り抜き、拡大しようという熱意な意思を示した感動的な集会となりました。私たちは東部の地でこの闘いを大きく創り出すために集まりました」と提起し、「東部の会の目的とこれからの闘い」として、①あくまで1047

名の解雇撤回を求めて闘う。②動労千葉とともに動労千葉のよう闘う。③自らの地域・職場で、民営化・外注化・非正規化を打ち破り、新自由主義と対決する労働運動を創り出すという3項目を提起しました。

続いて動労千葉新小岩支部・佐藤正和支部長が、ブラジル訪問の報告も行いながら「国鉄闘争全国運動東部の会」の先頭で闘うことを宣言。そして職場からの発言に入り、民間労組の仲間が、自らの解雇撤回闘争の経験に踏まえ、「もし和解の場で前原談話のような話が出たら私だったら机をひっくり返していい」と。なぜなら前原談話は「不当労働行為は正しかった。だけれどかわいそうだから金はやる。だから闘いをやめろ」ということだからだ」と、今回の政治和解を弾劾しました。東交の青年労働者は東交における民営化・外注化反対の闘いを、東交・動労千葉支援する会の会員拡大と一体のものとして闘うと宣言しました。さらに学校給食の民間委託職場で闘う仲間から、過酷な職場の現実とそこでの闘いが報告されました。

ここで事務局から会員拡大の具体的な方針と、委託職場、自治体、教組から3名の共同代表と、事務局長として動労千葉新小岩支部佐藤正和支部長、事務局次長に東部ユニオン委員長の小泉が就任することが提起され、拍手で承認されました。そして役員を代表して、日の丸・君が代被解雇者の米山良江さんが葛飾支援協結成に闘った思いを語り、被解雇者として「東部の会」の先頭に立って闘うことを決意表明してまとめました。最後には座席も足りなくなるとの結集の中で元気よく団結力アップを行いました。(東京東部地域合同労働組合東部ユニオン委員長 小泉義秀)

(表面からの続き)
それから私は、国労自体の体質の問題もあったと率直に思っているんです。というのは、当時も国鉄には下請け労働者がいたんです。その下請け労働者は全然国労の立場に立たなかつたですね。国労組合員がやられていた、「さあまろ」と、「威張りくさってるからこうなるんだ」と、国労のあり方に反感を持っていました。

私は、そういうことを考えると、運動のあり方というものを考えなきゃならぬのは、JRにおける正規労働者の方だけではだめです。同じ仲間がどんどん下請け・孫請けに切り下げられていきます。こういう人たちを全部糾合して、いわゆるユニオン組織でも作れないかなあと。ユニオン組織をつくらせて、下請け・孫請けの労働者を糾合していったら、私は国労の運動の再生にもなるし、そのことがJRの姿勢を正させる一番の基本になるんじゃないかなあと。

私のように、中曽根の策謀のために落選した人間が言ってもしょうがないんですが、しかしそれだけにね、恨みも骨髄に達するということもあるわけなんです。しかもあいつが考えていることは、憲法を変えて再び日本を軍事中心の国家にするということでしょう。そんなでたらめを許すわけにはいけません。そういうでたらめをできないように、中曽根と中曽根に同調する日本の連中、政治家に対して闘っていきたいと思います。

思っています。
権力の側はね、強い組合を孤立させようとして一生懸命になるのは当たり前なんです。これが孤立しないでどんどん枝葉を広げて連帯組織を作っていくたらとてつもない大きな力になりますからね。権力者の側から言えば、できるだけそういうことをしない・させない、そこにデマ宣伝も入れれば謀略も入る。そういうことを考えると、私はそういう政府側の、あるいは企業側の策謀を粉砕するために、やはり現場の労働者が強い結果力を持つこと。そして、積極的に運動を展開する中で、多くの仲間を増やし、特に安全問題なんかでは、尼崎事故以来、JRに対する関心をもっている人の中には非常に強いわけですから、そういうものを前面にたてる。JRの安全を確保していくためには、そこで働く労働者がキチッと権利を守れること、労働者としての活動が十分にできるということが保証されていなければだめなんだと。

6・27集会 九州の地でも 全国運動力強く始まる

「和解調印」前日の6月27日、九州・小倉にある商工貿易会館大ホールで開かれた「国鉄分割・民営化反対、1047名解雇撤回! 国鉄闘争の火を消すな! 6・27北九州集会」に参加しました。この集会は、6・13集会を皮切りに進んだ新たな全国運動を九州の地で本格的にスタートさせる集会です。

元九州国際大学学長の竹内良夫さんが「今日の集会を、全国の仲間、沖縄の闘いととも、国鉄1047名解雇撤回の闘いを広めるスタートにしよう」と力強く開会あいさつ。さらに全国運動呼びかけ人である手嶋浩一さんが「この闘いを新自由主義攻撃を押しとどめるものにして」とアピールしました。

集会のハイライトは国労旭川闘争団の成田昭雄さん、小倉

た。なぜなら前原談話は「不当労働行為は正しかった。だけれどかわいそうだから金はやる。だから闘いをやめろ」ということだからだ」と、今回の政治和解を弾劾しました。東交の青年労働者は東交における民営化・外注化反対の闘いを、東交・動労千葉支援する会の会員拡大と一体のものとして闘うと宣言しました。さらに学校給食の民間委託職場で闘う仲間から、過酷な職場の現実とそこでの闘いが報告されました。

ここで事務局から会員拡大の具体的な方針と、委託職場、自治体、教組から3名の共同代表と、事務局長として動労千葉新小岩支部佐藤正和支部長、事務局次長に東部ユニオン委員長の小泉が就任することが提起され、拍手で承認されました。そして役員を代表して、日の丸・君が代被解雇者の米山良江さんが葛飾支援協結成に闘った思いを語り、被解雇者として「東部の会」の先頭に立って闘うことを決意表明してまとめました。最後には座席も足りなくなるとの結集の中で元気よく団結力アップを行いました。(東京東部地域合同労働組合東部ユニオン委員長 小泉義秀)

特に最近痛感しておりますのは、どんどんJRの仕事は全部下請けにおろされていきますよね。その下請け・孫請けの労働者はろくな待遇を受けていないんです。臨時雇いみたいなのが多かったりする。思うように首を切られる。

ところがね、それに対してJRの組合の人たちは一体どう対応しておるのか。まあ私は傍目に見ておいたらあまり真剣に対応しようと思えていないと思えますね。

羽廣さんは「国労指導部は何一つ闘いを組織してこなかった。今度はわれわれ自身が国鉄

7・14 鉄道運輸機構弾劾闘争
7月14日(水) 14時30分 桜木町駅前(主催 動労千葉)

7・28 一日行動
○国労大会一日目闘争 9時、伊東・聚楽ホテル前
○動労千葉鉄建公団訴訟第25回公判闘争 11時、日比谷公園霞門集合・デモ行進
13時半、東京地裁527号法廷で傍聴
○国鉄闘争勝利総決起集会(主催 共に闘う国労の会)
18時半、文京区民センター(春日駅1分、水道橋駅10分)

動労千葉の闘いを孤立させてはならない
そして、本当の生き方というものをお考えさせるためにも、私は動労千葉の闘いというのは非常に重要な意味を持っていると

私はまだ3、4年は生きると思っています。皆さんと一緒にやることはやりたいと思っております。(6月6日に岡山で行われた「岡山国鉄闘争集会」でのアピールを編集して掲載しました)

思っています。
権力の側はね、強い組合を孤立させようとして一生懸命になるのは当たり前なんです。これが孤立しないでどんどん枝葉を広げて連帯組織を作っていくたらとてつもない大きな力になりますからね。権力者の側から言えば、できるだけそういうことをしない・させない、そこにデマ宣伝も入れれば謀略も入る。そういうことを考えると、私はそういう政府側の、あるいは企業側の策謀を粉砕するために、やはり現場の労働者が強い結果力を持つこと。そして、積極的に運動を展開する中で、多くの仲間を増やし、特に安全問題なんかでは、尼崎事故以来、JRに対する関心をもっている人の中には非常に強いわけですから、そういうものを前面にたてる。JRの安全を確保していくためには、そこで働く労働者がキチッと権利を守れること、労働者としての活動が十分にできるということが保証されていなければだめなんだと。

私はまだ3、4年は生きると思っています。皆さんと一緒にやることはやりたいと思っております。(6月6日に岡山で行われた「岡山国鉄闘争集会」でのアピールを編集して掲載しました)